

週日の説教

金 大烈 神父 2008年10月16日(木)

《私たちは、祈らなければ何もできません》

私たちには、洗礼を受けたとたんに神様からいただく3つの恵みがあります。

一つ目は王職、二つ目は司祭職、三つ目は預言者職です。

私たちは要理の勉強をし、洗礼を受けた人は3つの恵みをいただくこと、3つの職に与らなくてはならないことを知っています。しかし、具体的に、「私は王である」、「司祭である」、「預言者である」という意識を持ったことがあるのでしょうか。なぜ、洗礼を受けたとたんに私たちは3つの職をいただくのでしょうか。

この世の中で一番王らしい王の姿を見せてくださったのはイエス様です。低い心で、全ての人々を福音の中で治められた姿です。王と言われたのに十字架の犠牲を見せてくださいました。イエス様の王職は、いつも一番完璧な王の姿を見せてくださいます。

二番目の司祭職。司祭職というのは、祭儀を授けることです。授けるときには生贄とか捧げ物が必要です。しかし、イエス様はご自分が自ら生贄となりました。ご自身を生贄として捧げたただ一回の祭儀によって、完璧な祭儀が完成されました。そういう意味で、イエス様は司祭職をも完璧に見せてくださったわけです。

三番目の預言者職。イエス様はいつも御父の言葉に耳を傾けながら、そのみ旨が何であるかを聞こうとし、聞いたことは必ず実践しました。そして述べ伝えました。それが預言者職です。

私たちは、洗礼を受ける前に、「イエス様に従います」という決意を表しましたね。だから自動的に、私たちもイエス様が見せてくださったその三つの姿に従おうとしないといけないのです。

まず、私たちは王です。神様からいただいた尊い聖なる油を浴びた王です。イエス様が見せてくださったような王の姿を見せなければなりません。神様からいただいた品位や人格の全てに責任を持たなくてはなりません。そのためには、いつも意識することだと思えます。王のように生きるということは、自尊心を意識することです。自分で選んだのではなく、神様からこのような尊いものをいただいたのですから、自分も大事にしなければなりません。それが王職に与ることです。

二つ目の司祭職。私たちはどのように司祭になるのでしょうか。それは、イエス様の模範に従い、必要なときには自分が生贄になろうとする心を持つことです。私たちはいつも司祭職に与る準備ができていなければ、信者としてまだまだ、だと言えます。'愛のために犠牲を払う心、正しいことのために必要ならば命でもかける心を許してください'と祈らなければならないことを意味します。

最後に預言者職。今日の福音(ルカ 11:47 - 54)で、イエス様は、預言者がたくさん殺されたことを話しています。イエス様の時代の人々に「あなたたちは、自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てている」という冷たい話をしています。

昔の予言者というのは、未来のことが前もって分かり、人々にどういうことが起こるか伝える人でした。しかし、カトリック的な預言者というのは、そういう意味ではないことを以前話しました。カトリックでいう預言とは、過去を見て、未来を予測して、現実を一生懸命に生きることです。これが預言者の一番正しい意味です。預言者の条件は、耳を傾けることです。イエス様から正しい言葉を聞くことができれば、イエス様のみ旨を伝えることができます。聞くためには、祈りが必要です。祈らなければ、イエス様のみ旨を量ることは、絶対にできません。自分の頭にあるものがイエス様のみ言葉に変わってしまいます。自分でも錯覚をしてしまいます。自分の口から出るものがイエス様のみ言葉だと思い、間違えている人々が、この世の中にはたくさんいます。このような人々は、不幸だと思えます。ファリサイ派の人々がそうでした。律法の専門家として一生懸命に生きているのに、その文

字に縛られてしまい、自分の口から出る全てが神様の言葉だと思い、自分の行いが神様に一番喜ばれることだと錯覚してしまい、結局イエス様を殺してしまいました。

私たちが預言者として、預言職を果たすためには、何よりも祈る姿が必要です。司祭も修道者も祈りがなければ司祭ではありません、修道者でもありません。それは、一番大事なことを失って、たくさんの人々の前で嘘をつくことになります。信徒も同じです。祈らずにどのようにしてイエス様の御心が分かり、語るができるのでしょうか。

今日の福音を通して、もう一度私たちが考えるべきことは、『私たちは一日24時間の中でどのくらいの時間祈っているのか』、ということです。5分くらいしか祈っていないのではないのでしょうか。本当にまじめに、イエス様の御前にひざまずいて、"あなたの御心は何でしょうか。どうすればよいのでしょうか。"と聞く時間をどのくらい持っているのでしょうか。長くても30分くらいでしょう。そしてそれもしない方は、日曜日にミサに与ったり、平日のミサに与るくらいでしょう。

私たちは、祈らなければ、何もできません。祈りによって自分の間違えた心が見られます。自分が憎んだ人の正しさが見えます。祈りによってご聖体が近づいてきます。祈りによって赦しのまことの意味がある程度わかる気がします。

ありがとうございました。